

# 松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail:kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

## 生徒が命に見える

昨年11月28日のNHKスペシャルシリーズ「東日本大震災 悲劇を繰り返さないために ～大川小学校・遺族たちの3年8ヶ月～」を見ました。

2011年3月11日、北上川沿いに海岸から4km離れた場所にあった宮城県石巻市立大川小学校は高さ10mの津波にのまれ、全校児童108人のうち74人が犠牲になるという、学校管理下での災害としては未曾有の大惨事が発生しました。

私の自宅前にもほぼ同規模の小学校がありますが、毎日、自宅前を賑やかに登下校する子どもたちの7割が犠牲になってしまったらと想像するだけで苦しい思いがします。

番組では、保護者たち自らが聴き取りをする中で、津波に備えて裏山に逃げようと進言した児童や教員が複数人いたにもかかわらず、なぜ、50分もの間、教師や子どもたちは、校庭にとどまり続けたのか、その理由を明らかにしたいという思いや行動を追っていました。しかし、求めているものは、行政の説明でも、大川小事故調査委員会の報告でも明らかになりませんでした。保護者たちは、誰々の責任であったのかを問うのではなく、この悲劇に至った原因を教訓として後世に伝えることが亡くなった子どもたちへのせめてものことができることだという気持ちでした。明らかにならない苦悩から一部の保護者は司法に訴え、司法の場でその部分を明らかにしたいと現在に至っています。

この番組に登場する保護者の一人に福島県の現役の中学校教諭がいます。彼はこの津波で小学校6年生の娘を亡くしました。裁判の原告の保護者には加わりませんでした。それまでの保護者集団をまとめてきた一人でした。彼は、各地に招かれて講演活動もしていて、その様子も番組の中で紹介されていました。「生徒が命に見える」と題したその講演の彼の言葉は同じ教員として胸が打たれました。彼の言葉に学び、子どもたちに向き合っていきたいものです。



私は最初とても辛かったです。入学式をやっても、部活動をやっても、授業をやっても。うちの娘も中学校に入ればこうだったんだろうなと思っていました。辛くて辛くて嫌だったんですが、ある時思ったんです。娘があんなに楽しみにしていた中学校に俺は毎日行ってんじゃねえかと。だから、楽しい学校にする。子どもの命を守って、命を輝かせる。この3年間でいちばん自分が変わったと思うのが、生徒が「命」に見えるということです。

3年前はそう思ってなかったです。「命は大切」だとか、「命はかけがえがない」とか何百回となく生徒に言ってきたけど、どれだけの思いで言っていたのか。国語の時間だから、生徒は席について教科書を開くものだと思っていました。違う。これは、「命」が毎日カバンを持って学校に来て、授業を聞いているんだと思うようになりました。生んでくれた存在があり、行ってらっしゃいという存在があるそれぞれの「命」が授業を聞いているんだと。そして、その「命」を守って、「命」を輝かせる。

そう思った時、教員は変わるし、授業も変わるし、学校も変わる。そう気づきました。

( 山本 嘉 )

## ～松阪教育支援センター「鈴の森教室」「うれしの教室」～

学校へ行こうと思っているのに、朝になると体調を崩す子ども、登校しようと準備をしているのに玄関から出られず立ちすくんでしまう子どもなど、どうしても学校への一歩が踏み出せずにいる子どもたちが先生方の目の前にいませんか。松阪教育支援センターは、子ども・保護者、そして、学校関係者の支援を行っています。

子どもたちが学校へ行けなくなる理由・要因はさまざまであり、症状や経過も人それぞれです。ただ、経過については、大きな流れとして共通する部分があるといわれています。例として1つの経過を紹介します。

不登校開始期	欠席日数が週1日から3～4日、そして、ほぼ毎日欠席へと変わっていく時期。 「行けない」ことへの焦りや自分を責める気持ちが強い。
苦悶期	自分を責める気持ちが強くなっていく時期。 焦りと責める気持ちを向ける矛先がなくイライラが募る。
無為期	学校のことを忘れて毎日を過ごす時期。 学校のことで悩んでいる様子がないので、怠けているように見える。しかし、エネルギーを補充している。
エネルギー再活性化期	「無為期」の何もせずボーッとしていた毎日に飽きて、いろんなことをやっていきたいと、エネルギーが活性化してくる時期。
学校帰心期	活性化されたエネルギーが再び学校に向かい始める時期。 「学校」に関する言葉が出てくる。
不完全登校期	2～3日行ったかと思うと、少し休むといった不完全登校時期。 「頑張って毎日登校しよう」の言葉で不登校へと戻ってしまうことがある。
完全登校期	多少のことがあっても、危なげなく学校に通える時期。

参考文献（「学校現場で使えるカウンセリング・テクニック」諸富祥彦）

今教室には、「苦悶期」から「不完全登校期」の子どもたちが通っています。学校から距離を置いている時、何かをやる意欲が出てきた時、学校を意識し出した時など、いろいろな子どもの行動、状況、様子に合わせて支援をしていくには、それぞれの子どものに合わせた接し方をしていくことが大切です。今年の担任会では、担任の先生をはじめ、養護教諭の方の思いを聴かせていただくことができました。また、保護者の会も3回開催し、保護者の方との交流の場として、思いや願いを聴かせていただくことができました。このような機会を活かして、子どものことについて保護者の気持ちに心を寄せながら、学校関係者と指導員が連携していけるように、先生方のご協力をお願いしたいと思います。

また、このように子どもを支えていくためには、まずは担任の先生をはじめ、学校の先生方や保護者の方が心身ともに元気でいていただくことが第一です。当センターでは、先生や保護者の方の相談もしていますので、お気軽に連絡をいただければと思います。

### 購入書籍のお知らせ

☆ スマホでのトラブル、犯罪、いじめなど様々な課題がマンガやクイズ形式で学べます。ご活用ください！



	書名	著者
1	小学生のスマホ免許 こんな時どうする！？ クイズ形式で身につくネットトラブル護身術	ネット依存アドバイザー 遠藤 美季
2	中学生のスマホ免許 依存・いじめ・炎上・犯罪… SNSのトラブルを防ぐ新・必修スキル	ネット依存アドバイザー 遠藤 美季

☆ 購入書籍の一部を掲載しています。HPに随時掲載していますので、ご覧ください。

☆ 書籍の貸し出し状況については、26-1900までお問い合わせください。